

令和4（2022）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅡ（SeminarⅡ） 262044-14000					担当教員	複数人		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	2	配当年次	2年次	開講期	通年
科目特性	知識定着・確認型AL／協同学修型AL								

① 授業のねらい・概要
<p>ホームルーム的役割を持ちつつ、1年次のゼミナールⅠ前・後で修得した知識と能力を土台として、</p> <p>(1) 情報収集能力と文章作成能力の向上、(2) 自己表現力の向上、(3) 論文作成能力の向上、を目標とする授業である。(1)については、文章の書き方の基本、情報収集の基礎と実践、文章作成の訓練、レポート作成、基本論理思考トレーニング等に取り組む。(2)については、ディスカッションやスピーチに取り組む。(3)については、修了レポートの完成に取り組む。</p>
② ディプロマ・ポリシーとの関連
<p>専門的知識・技能を活用する能力／コミュニケーション能力／情報収集・分析力を育成する授業である。</p>
③ 授業の進め方・指示事項
<p>ゼミナールⅠ前・後などで培った文章作成能力を発展・応用し、その成果として修了レポートを完成させる事が中心的な目標となる授業である。</p>
④ 関連科目・履修しておくべき科目
<p>ゼミナールⅠ前、ゼミナールⅠ後</p>
⑤ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安
<p>(i) レポートの書き方の基本が十分に習得できている。</p> <p>(ii) 修了レポート執筆要領の知識が十分に習得できている。</p> <p>(iii) 修了レポート作成のための「知りたいこと」を見つける方法が十分に習得できている。</p> <p>(iv) 文献等で調べた内容を適切に文章にまとめることができる。</p> <p>(v) 論文（修了レポート）作成の進捗や成果を他者に説明できる。</p> <p>(vi) 論文（修了レポート）を完成し、調査・研究の成果をまとめることができる。</p>
⑥ テキスト（教科書）
<p>山田剛史・林創（2011）『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房、その他、必要に応じて資料・レジュメ等を配布する。</p>
⑦ 参考図書・指定図書
<p>佐藤智明・矢島彰・山本明志（編）（2014）『大学学びのことはじめ』ナカニシヤ出版、白井利明・高橋一郎（2008）『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房など、授業において適宜紹介する。</p>

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S 到達目標を越えたレベルを達成している	A 到達目標を達成している	B 到達目標達成にはやや努力を要する	C 到達目標達成には努力を要する	D 到達目標達成には相当の努力を要する
(i) レポートの書き方の基本の習得	レポートの書き方の基本が十分に習得できていて、授業で伝えた知識を何も見ずに、卓越した具体例をまじえて、レポートを作成することができる。	レポートの書き方の基本が十分に習得できていて、授業で伝えた知識を、何も見ずにレポートを作成することができる。	レポートの書き方の基本が不十分ながら習得できていて、授業で伝えた知識を、資料を見てレポートを作成することができる。	レポートの書き方の基本が不十分ながら習得できていて、授業で伝えた知識を、資料を見てかつ教員の支援をえてレポートを作成することができる。	レポートの書き方の基本が習得できておらず、授業で伝えた知識を、資料を見ても、教員の支援をえてもレポートを作成できない。
(ii) 修了レポート執筆要領の知識の習得	修了レポート執筆要領の知識が十分に習得できていて、授業で伝えた知識を、何も見ずに卓越した具体例をまじえて、わかりやすく説明できる。	修了レポート執筆要領の知識が十分に習得できていて、授業で伝えた知識を、何も見ずに説明できる。	修了レポート執筆要領の知識が不十分ながら習得できていて、授業で伝えた知識を、資料を見て説明できる。	修了レポート執筆要領の知識が不十分ながら習得できていて、授業で伝えた知識を、資料を見てかつ教員の支援をえて説明できる。	修了レポート執筆要領の知識が習得できておらず、授業で伝えた知識を、資料を見ても教員の支援をえても説明できない。
(iii) 修了レポート作成のための「知りたいこと」を見つける方法の習得	修了レポート作成のための「知りたいこと」を見つける方法を十分に習得し、自分の「知りたいこと」を、卓越した見解もまじえて、調べることができる。	修了レポート作成のための「知りたいこと」を見つける方法を十分に習得し、自分の「知りたいこと」を調べることができる。	修了レポート作成のための「知りたいこと」を見つける方法を不十分ながら習得し、自分の「知りたいこと」を調べることができる。	修了レポート作成のための「知りたいこと」を見つける方法を不十分ながら習得し、自分の「知りたいこと」を、教員の支援をえて調べることができる。	修了レポート作成のための「知りたいこと」を見つける方法を習得できておらず、自分の「知りたいこと」を、教員の支援をえても調べることができない。
(iv) 文献等で調べた内容を適切に文章にまとめ発表する。	文献等で調べた内容を十分に、授業で伝えたレジュメの形式に沿ってまとめ、卓越した考察も含め発表することができる。	文献等で調べた内容を十分に、授業で伝えたレジュメの形式に沿ってまとめ発表することができる。	文献等で調べた内容を不十分ながら、授業で伝えたレジュメの形式に沿ってまとめ発表することができる。	文献等で調べた内容を、教員等の支援を受けて、授業で伝えたレジュメの形式に沿ってまとめ発表することができる。	文献等で調べた内容を、教員等の支援を受けても、授業で伝えたレジュメの形式に沿ってまとめ発表することができない。

(v) 論文作成の進捗や成果の他者への説明	論文作成の進捗や成果の他者への説明が高い水準ででき、授業内容を超える学修成果を示している。	論文作成の進捗や成果の他者への説明が十分にできる。	論文作成の進捗や成果の他者への説明が不十分であるができる。	論文作成の進捗や成果の他者への説明が教員等の支援を受けてできる。	論文作成の進捗や成果の他者への説明が教員等の支援を受けてもできない。
(vi) 論文(修了レポート)	形式、内容、独創性等の点で高い水準の論文を作成している。	形式、内容、独創性等の点で十分な論文を作成している。	形式、内容、独創性等の点で少数の不備な箇所もあるが論文を作成している。	形式、内容、独創性等の点で多数の不備な箇所があるが論文を作成している。	教員等の支援を受けても論文が作成できない。

⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	試験	小テスト	課題（ミニレポート作成等）	論文の構成・概要等（修了レポート方向性シート）・レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合			25	35	20	20		100
(i) レポートの書き方の基本の習得			7.5		5	5		17.5
(ii) 修了レポート執筆要領の知識の習得			7.5			2.5		10
(iii) 修了レポート作成のための「知りたいこと」を見つける方法の習得				15	5	2.5		22.5
(iv) 文献等で調べた内容を文章にまとめ発表する。			5			5		10
(v) 論文作成の進捗や成果の他者への説明			5		10	5		20
(vi) 論文(修了レポート)				20				20
フィードバックの方法	提出された課題、レポート等に助言をつけて返却する。							

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）

3・4年次の専門的な学びのための論文作成能力の向上に向けて、修了レポート（論文）作成が今後も最重要な目標になる。学修内容全般について、改善を探索して行く。

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	イントロダクション、スケジュール、学習内容の確認等	学習内容に関する復習	90分
2	レポートの書き方の基本の習得Ⅰ	学習内容に関する復習	90分
3	レポートの書き方の基本の習得Ⅱ	学習内容に関する復習	90分
4	レポートの書き方の基本の習得Ⅲ	学習内容に関する復習	90分
5	レポートの書き方の基本の習得Ⅳ	学習内容に関する復習	90分
6	情報探索トレーニング	学習内容に関する復習	90分
7	修了レポート執筆要領の知識の習得Ⅰ	学習内容に関する復習	90分
8	修了レポート執筆要領の知識の習得Ⅱ	学習内容に関する復習	90分
9	修了レポート執筆要領の知識の習得Ⅲ	学習内容に関する復習	90分
10	修了レポート執筆要領の知識の習得Ⅳ	学習内容に関する復習	90分
11	修了レポート執筆要領の知識の習得Ⅴ	学習内容に関する復習	90分
12	修了レポート執筆要領の知識の習得Ⅵ	学習内容に関する復習	90分
13	修了レポート作成のための「知りたいこと」を見つけるトレーニングⅠ	学習内容に関する復習	90分
14	修了レポート作成のための「知りたいこと」を見つけるトレーニングⅡ	学習内容に関する復習	90分
15	修了レポート作成のための「知りたいこと」を見つけるトレーニングⅢ	学習内容に関する復習	90分
16	後期のスケジュール、前期ゼミの成果全般の確認	修了レポート概要作成への取り組み	120分

17	スピーチ、修了レポートの概要報告	修了レポート概要作成への取り組み	120分
18	スピーチ、修了レポート概要の修正報告	修了レポート概要作成への取り組み	120分
19	スピーチ、修了レポートの進捗報告と討論、個別の詳細指導	修了レポート作成への取り組み	120分
20	スピーチ、修了レポートの進捗報告と討論、個別の詳細指導	修了レポート作成への取り組み	120分
21	スピーチ、修了レポートの進捗報告と討論、個別の詳細指導	修了レポート作成への取り組み	120分
22	スピーチ、修了レポートの中間報告と討論	修了レポート作成への取り組み	120分
23	スピーチ、修了レポートの中間報告と討論	修了レポート作成への取り組み	120分
24	スピーチ、修了レポートの進捗報告と討論、個別の詳細指導	修了レポート作成への取り組み	120分
25	スピーチ、修了レポートの進捗報告と討論、個別の詳細指導	修了レポート作成への取り組み	120分
26	修了レポート・プレゼンテーションの準備、個別指導	修了レポート・プレゼンテーションの準備	120分
27	修了レポート・プレゼンテーションの準備、個別指導	修了レポート・プレゼンテーションの準備	120分
28	修了レポート・プレゼンテーション	修了レポート・プレゼンテーションの準備	120分
29	修了レポート・プレゼンテーション	修了レポート・プレゼンテーションの振り返りの考察	120分
30	全体の振り返り	全体の振り返りに関する考察	120分

⑫ アクティブラーニングについて

知識定着・確認型 AL、協同学修型 AL を採用する。修了レポートの作成において、教員が修正点を指摘しレベルアップを促す。スピーチ、プレゼンテーション、討論においても、教員がコメントを行うことで能力向上を図る。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

実務経験と授業科目との関連性